

研究課題 (テーマ)	オムツ交換と陰部洗浄の看護ケアによる排泄物を介した療養環境汚染の実態		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部 基礎看護学講座	准教授	三善 郁代
分担者	看護学部 基礎看護学講座	講師	鷲塚 寛子
	愛知医科大学看護学部	准教授	長崎 由紀子
研究結果の概要			
<p>【背景】 オムツ交換は、陰部洗浄などの清潔援助と一緒に実施されることが多いため、清潔・不潔の判断が曖昧となり汚染拡大の可能性が高い難易度の高い技術といえる。オムツ使用者の中には、多剤耐性菌を保菌している者もいて、病院・施設から在宅へと療養の場を移した場合に、家族内感染がおこるケースもある。また、新型コロナウイルスについても、排泄物に汚染された手指より経口感染することが示唆されている。これらのことから、汚染を拡大しないオムツ交換の技術を身に着けることは、感染対策として重要な課題となるが、本邦においてオムツ交換を含む排泄援助の感染制御に関するガイドラインは存在しない。</p> <p>【目的】 臥床患者のオムツ交換と陰部洗浄の一連の看護ケアを実施する看護師のケア技術を観察し、排泄物を介した患者の身体や寝衣、周辺環境の汚染状況を把握し、マニュアル作成のための基礎データとする。</p> <p>【方法】 共同研究者を被験者としたプレテストを行い、実験機材の配置や設定、データ収集・分析の視点を明確にした。</p> <p>①被験者には大学実習室のベッドに臥床しているモデルのオムツ交換と陰部洗浄の一連の看護ケアを実施してもらい、その様子を2方向からビデオ撮影する。患者はオムツ内に排便している設定とし、模擬便には蛍光塗料を混ぜておき、ケア終了後には、ブラックライトを用いて、シーツやベッド柵・ワゴンなどの周辺環境の蛍光塗料の付着部分の写真撮影を行う。</p> <p>②蛍光塗料の付着状況の分析は、画像処理ソフトウェア「ImageJ」を用いて蛍光塗料付着面積を算出する。</p> <p>【結果】</p> <p>①ビデオ撮影：看護師の行動を多面的に把握するために、撮影は側面・足側から行うこととし、カメラの設置位置や角度を決めた。また、死角になる部分もあるため、看護師の目線からの撮影も必要であることが分かった。ウェアラブルカメラなどの使用を検討することとした。</p> <p>②蛍光塗料の付着状況の分析：蛍光塗料付着面積の算出にあたり画像処理ソフトウェア「ImageJ」を用いての解析の条件と画像の撮影条件を決定した。</p> <p>※なお、本研究は看護師10名（経験年数5年以上）を対象として行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施を見合わせている。</p>			
今後の展開			
新型コロナウイルス感染症拡大防止の行動制限の状況を把握し、状況が緩和した時点以降に、対面での調査を再開する。データ収集を終え次第、分析を進める。得られた成果は、学会発表や論文投稿を目指す。			